

2

地産地消と食に対する理解・活動の促進

【現状認識】

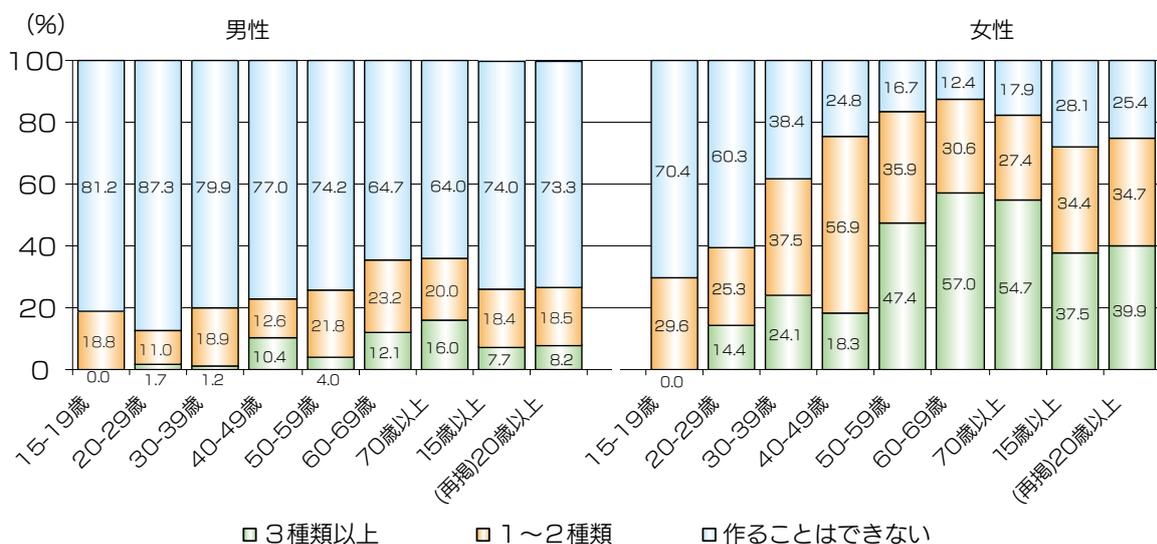
本県では、農業・農村や地域の食文化についての理解を深め、「食」と「農」を結び付ける「食育」や、地域で生産された農畜産物を地域で利用し消費する「地産地消」を家庭、学校、地域社会など多様な主体の参加と連携・協力の下、取り組んできました。

しかしながら、生活水準の向上と豊かな食生活を背景に、食べ残しや食品廃棄物の増大が問題となるようないわゆる「飽食」の時代の中で、価値観や食生活スタイルの多様化が進み、食に対する関心の希薄化、食習慣の乱れによる生活習慣病の増加など様々な問題が引き起こされています。

さらには、核家族化の進展により、家庭や地域において受け継がれてきた郷土料理・伝統食等の特色ある食文化の継承が薄れていくことなどが危惧されています。

また、平成 23 年 3 月の東日本大震災を契機に、「食」は生命の維持に欠くことのできないものであるばかりでなく、人々の暮らしに大きな役割を持つものであることや、自然豊かな大地で生産される安全な農畜産物が安定的に供給されることの重要性が見直されています。

【作ることができる郷土料理や伝統食の数（男女・年代別）】



出典：平成 22 年度県民健康・栄養調査（健康福祉部調べ）

【今後の方向性】

農業者と消費者の顔が見える関係づくりや自然豊かな環境で生産される安全で良質な信州農畜産物の積極的な情報発信を強力に進めるなどの地産地消の推進とともに、学校・保育所や地域において信州農畜産物の種類、品質、機能性等を学ぶ機会や生産・収穫・料理を体験する機会の拡大などによる食育活動を推進し、農村における食文化の形成を通じて健康で豊かな暮らしの実現をめざします。